

9月を迎えたとはいえここ沖縄はまだ盛夏といわざるを得ない暑さが続いています。

ロンドンオリンピックではすばらしい姿をたくさん見ることができました。個人的には卓球の石川佳純選手を応援しました。2年前に美ら島総体の卓球が宜野湾市で開催され実際に試合を見てさらにラグナガーデンホテルの夕食会場でも本人(と思う)を見かけファンになりました。一方、オリンピックと同時進行で沖縄の高校生はインターハイで活躍しその後を受けて甲子園では浦添商業が頑張ってくれました。

各地の夏祭りが終わり子供たちの学校も始まり何かと忙しい毎日となっていますが、今月号の表紙はよお～んなあ～行かな(ゆっくりいきましよう)という気分させてくれます。

報告は都道府県医師会長会議、九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会ですが、全国の情報が多く載っています。県医師会代議員会では身近な問題が議論されたようです。私もこれまではあまり関心を持っていませんでしたが、わが身・わが施設に直接に関わる問題が多くあり、それが議論されていることがわかります。県民公開講座はtPAのことや回復期リハのこと、かかりつけ医の大切さなど有意義な会であったことがうかがわれます。沖縄県内科医会の紹介もあります。

友寄英毅先生の叙勲受章祝賀会では先生の数々の功績や祝辞が紹介されています。先生のお仕事で特筆すべきは「沖縄県医師会史第2巻」の編纂です。謝辞では先生が医師会職員や関係者の協力に感謝され、また奥様にもいたわりのお言葉をかけられていて先生のお人柄をうかがうことができます。

生涯教育コーナーでは「上位申告者57名へ記念品贈呈」が目をひきます。先生方の日頃の努力が報われるときでもあります。内原栄輝先生の思いもお読みください。

琉大耳鼻咽喉・頭頸部外科喜友名朝則先生の「声帯麻痺の診断と治療」では臨床像から診断・予後・治療まで丁寧に解説されています。発症後1年以上の経過で自然治癒が望めない患者は潜在的にあるので我々はそのような患者へ音声

改善手術に関しての情報提供の必要があるとおっしゃっています。下地武義先生の「頭部の変形の診療」は小児科や産科の医師への啓発となります。

このコーナーは自分の専門外のことを吸収することができるいい機会です。幅広い分野の先生方に執筆をお願いしていますので希望の題材がありましたら事務局へご連絡ください。

インタビューコーナーへは那覇市立病院医師会会長の伊波寛先生が登場されています。大人数をまとめることは大変だと思いますがご活躍を期待します。沖縄県医師会の活動への参加もよろしくお願い致します。

救急週間、結核予防週間、ガン征圧月間についてのお知らせもあります。救急については宮城良充先生の熱い思いが記されています。結核についても妊婦の死亡・多くの二次感染事例があり気を引き締めて診療にあたる必要があります。

琉大人体解剖学講座の石田肇教授には「琉球大学でいご会」及び解剖学実習について寄稿いただきました。献体される方の尊いお気持ちを20数年ぶりに思い返しました。

神谷仁先生にはクリニックで行なっている出産前からの育児支援を紹介していただきました。支援の出発点は虐待死の問題からということで貧困ともからみ根が深いことがわかります。小児科医の私にとってすごく関連があるテーマですので興味深く読ませていただきました。この取り組みが沖縄県全体へ広がることを期待したいです。

さて、私は7月末に岩手県の沿岸部を訪ねました。宮古市から南下して宮城県気仙沼市までレンタカーで周りました。大槌町では植田先生に街を案内していただきましたが、復興に向けて動き出して入るものまだまだという状況でした。他の街も同様でした。我々も息の長い支援が必要だと改めて感じました。

会報は執筆された方々、医師会事務局の力を結集して毎月発行しております。今月号も読み応えのある記事がいっぱいです。ぜひ精読されて感想、ご意見をいただけると幸いです。

広報委員 富名腰 義裕